

講義1 近未来の日本農業と地域社会 ～政策を考える基本視点～

福島大学食農学類長 教授 生源寺 眞一

- ・低下している日本の近年の食料自給率を指標の推移で解説。

買い方、食べ方も変わった日本の消費者の視点に着目。着実に増加した食品産業の働き手の動向、そうした事に踏まえ、安定した雇用力を日本社会の基盤にして、地域密着型の雇用機会の提供を通じて社会の安定に貢献する農業政策とは。

職業として選ばれる農業、企業の農業参入への道、超高齢化社会と農業のあり方、安定感を欠いた農政、経営所得安定対策の対象等広範囲にわたり、日本農業の課題も含めての講演内容であった。大いに参考になった。しかし私個人の農政に対する思いは場当たり政策であり、農業政策はゆりかご。筋の通った政策が感じられないという点は共感できた。

講義2 内発力は逆境を順境に変える

長野県川上村 村長 藤原忠彦

- ・川上村の農業の沿革を中心とした講演。講義内容は難しい話ではなく、藤原村長が構想から20年になる川上村の現状の姿を分かりやすく解説。人口4600人の村が川上村ブランド確立の為、政策実行を種々取り組み実施してきた点は共感する。三風の原則（風土、風習、風味）～地域にはその地域にあった取り組みがある。～箕輪町も参考にする事項はあり。

講義3 「子育て」で地域に人を呼び戻す。～森の幼稚園を起点とした取り組み～

特定非営利活動法人 智頭町森のようちえん まるたんぼう

理事長 西村 早栄子

- ・「田舎子育て」の良いところとは。特徴と目的を分かりやすく講義

まるたんぼうの特徴、現状の活動を紹介、森で育った子供の様子、行政の支援制度等説明あり。今後の夢と森のようちえん効果を全国に立ち上げたい熱意が伝わる良い講義であった。

講義4 企業活動から見える地域との関わり

タビオ株式会社 社長 越智 直正

- ・講義内容は全く意味不明。講師としては問題あり。